授業改善プラン　国語

現状分析と課題（学力調査、授業アンケート等を基に）

・全国学力調査（第3学年）の結果より、東京都、全国の平均正答率に比べすべてに関して下回っている。特に国語A（主として知識）では「読むこと」、国語B（主として活用）では「書くこと」「言語事項」の正答率が低くなっている。
・都の学力調査（第2学年）では、国語A（教科の内容）に関しては、正答率が東京都・江戸川区の平均を上回るものが多い。しかし、「言語」に関する問題は東京都・江戸川区を下回る結果になっている。国語B（読み解く力に関する内容）に関しては、正答率が江戸川区の平均とほぼ同じだが、東京都を下回る数値になっている。特に、「取り出す力」「解決する力」に関しては、東京都・江戸川区を下回る結果になっている。

授業改善の重点

・「読む力」を伸ばすために、要点を的確につかんで、短くまとめる要約作業を多く取り入れていく。単元終了後に、教科書には掲載されていない文章読解問題のテストを実施し、読む力が定着しているかを把握する。また、文脈を意識させるために、理解が難しい語句については辞書を使って調べ、その語句が文章の中でどのような役割があるかを考えさせる授業を展開する。
・「書く力」を伸ばすために、教科書の文章や新聞のコラムを読んだあとに感想や、課題作文を書かせる。根拠と具体例を交えて自分の意見を書けるようにするために、授業の中で定期的に課題を出したり、定期考査に出題したりして指導していく。また、書く内容を整理するために構成メモ等で箇条書きにする習慣を身につけさせていく。
・「言語」の力を伸ばすために、漢字テストの定期的な実施と、それに伴い、読み取り・書き取りの反復練習を取り入れていく。また、「話す・聞く」や「書く」の指導と関連させ、「読める・書ける」から「使える」につなげ、語彙を増やし語感を磨く指導を充実させていく。例えば、文章を書かせる際に、「四字熟語を三つ効果的に使う」、「熟語を20種類以上使う」などの条件をつける。また、スピーチなどを発表させる際に、「ことわざを二つ以上入れる」や「外来語を使わない」などの工夫をさせる。こうすることで、意図的に言葉に向かい合い、語彙力の育成につながると考える。
・「取り出す力」を伸ばすために、文章や図表などから正確に情報を読み取ることの指導を丁寧に行う。また、課題に応じて読み取った情報を取捨選択したり組み合わせたりすることの指導を行う。
・「解決する力」を伸ばすために、文章を読んで内容を正確に理解するだけでなく、テーマを設定し、その課題に沿って文章を読ませたり、情報を収集・整理させたりする。そのような取り組みを通して、必要に応じて的確に情報を処理できる力を身につけさせる。
・授業では、単元を通じて「何をするのか」、「どのような力を身につけるのか」を明示し、意識させる。また、問題解決的な学習活動を効果的に取り入れる。「情報の収集・処理（何を根拠に）→考えの形成（どう考え）→発信（どう発信するか）」の学習過程を可能とする課題を設定する。

家庭学習のアドバイス

・読書。
・新聞のコラムを読む。（例）朝日新聞「天声人語」、読売新聞「編集手帳」など。
・長文読解の問題集に取り組み、正しい解答を導く訓練をする。
・文章の内容を理解するために、分からない語句を辞書で調べる。
・漢字習得のために、例文も一緒に書いて漢字練習をする。

深い学びシリーズ（おすすめの本）

・教科書で読んだ古典作品。（例）「竹取物語」、「平家物語」など。

授業改善プラン　社会

現 状 分 析 と 課 題（学力調査、授業アンケート等を基に）

・校内で行った生徒による授業アンケートによると、
　①…「社会科が好きである」「社会科が楽しい」という質問項目に対して、肯定的な回答をする生徒が非常に多い。
　②…「先生の板書や説明がわかりやすいか」「先生の用意するプリントはわかりやすいか」という質問項目に対しても肯定的に回答する生徒が非常に多い。
・東京都の学力調査の結果によると、
　③…社会的事象に対して、「読み取る力」は江戸川区平均を上回っているが東京都の平均を下回っている。
　④…社会的事象を「解決する力」が江戸川区平均を下回り、課題が見られる。

授 業 改 善 の 重 点

上記の分析と課題を踏まえ、以下の授業改善を行う
　①…語句・用語の暗記に頼らず、様々な資史料を提示することで、社会的事象を「読み取る力」を養う。
　②…単元ごとに問題解決学習の時間を設け、社会的事象を「解決する力」を養う。
　③…引き続き「社会科が楽しい・好きだ」と感じることができるよう、地元の江戸川を題材にした学習課題を設定し、生徒の関心をより一層高める。
　④…小テストや、ノート作りを評価することによって「これをやればできる。」という感触を持てる授業を行うとともに、資料の読み取りなど都立高校入試問題に対応できる授業を行う。

家 庭 学 習 の ア ド バ イ ス

・授業の小テストで出題された語句や用語を確実に身に付けることが大切です。
・社会科は、グラフや年表、写真、地図といった資史料が命の教科です。授業や問題集で資史料が出てきたら、この資料は何を表しているのか、考える習慣を身に付けましょう。特にグラフの資料が出てきたら、大きな変化に着目することがポイントになります。
・身の回りの出来事に興味を持ってみること。特に新聞は、情報の宝庫です。大見出しだけでも、目を通すだけで、最近の話題を知ることができます。授業で習ったことが新聞やニュース番組で報道されていると、「おっ、知ってるぞ」となるはずです。

深い学びシリーズ（おすすめの本）

【著者『書名』出版社の順で記載】

・山本　博文　監修『角川まんが学習シリーズ　日本の歴史　全15巻』　KADOKAWA
・矢野恒太記念会『日本のすがた2017』　矢野恒太記念会
・池上　彰『14歳からのお金の話』マガジンハウス
・ヴィクトール・E・フランクル『夜と霧』　みすず書房
・加藤　陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』　新潮社
～これらの本はすべて本校の図書館にあります。まだまだ紹介したい本はたくさんありますので、本校の社会科の教員に是非聞いて下さい！～

授業改善プラン　理科

現 状 分 析 と 課 題（学力調査、生徒による授業アンケート等を基に）

2年生の都学力調査によると、生徒の理科に対する興味関心は都の平均を上回っており、また生徒による授業アンケートからは8割強の生徒が理科を楽しく学べている。しかし、その一方で都学力調査では「思考・判断・表現」や「問題を読み解く力」が都の平均を下回っており、必ずしも理科の学習内容が定着しているとは言えない状況である。

生徒の理科に対する興味関心を学習内容の定着に繋げていくことが課題である。

授 業 改 善 の 重 点

理科への興味関心が高いことを生かし、授業だけではなく、自ら進んで学習に取り組む姿勢を養うことが大切である。以下は、そのための授業改善の重点である。

①確認テストなどの復習機会を増やし、それに向けた家庭学習の習慣をつける。

②実験の時間を十分に確保することによって、座学とのメリハリをつけるだけではなく、「思考・判断・表現」力を養う。

家 庭 学 習 の ア ド バ イ ス

- 予習として、実験の目的・方法などをノートにうつす。
  実験器具の絵も丁寧に描く。注意点は赤ペンで目立つように記入（これ大事）。
- 結果、考察は自分の言葉でまとめる。（その実験から何が言えるかを自分の頭で考える）
  間違っていてもよい。正解は色ペンで記入。（間違ったことは記憶に残りやすい）
- ワークの解答は専用ノートに書く。ワークには、できたら○、調べてできたら△、できなかったら×の印をつけておく。○が2回連続でついたら、その問題は二度とやらない。2回連続で○がつくまで繰り返しやる。
- 都立入試対策としては、会場テストや実力テストの問題を繰り返し行う。分からない問題は自分で調べ、（苦手な分野であろうから）ついでにその周辺を復習する。

深い学びシリーズ（おすすめの本）

- 科学的とはどういうことか-いたずら博士の科学教室　（仮説社）
- 進化しすぎた脳-中高生と語る「大脳生理学」お最前線　（ブルーバックス）
- 海馬-脳は疲れない　（新潮文庫）

授業改善プラン　英語

現 状 分 析 と 課 題 （学力調査、授業アンケート等を基に）

　生徒による授業アンケートの結果から分析すると、大多数の生徒が授業に集中して取り組み、教員の説明にきちんと耳を傾けているようだが、ノートまとめなどの課題提出の悪い生徒が各クラス数名いるなど、全体的に家庭学習が定着していない傾向が見られる。

　都の学力調査では基本事項はかなり定着しているが、発展問題に対する正答率が低い。その場限りの知識理解になることなく、家庭学習を大切にし、予習・復習を習慣化される必要がある。

授 業 改 善 の 重 点

　家庭学習を定着させるべく、毎時間適量の課題を出していく。また課題提出を促し、提出できない生徒に対する声掛けや家庭への連絡を行っていく。また、基本事項の徹底に加え、応用力が身に付くような教材を作成し、授業内で使用していく。

家 庭 学 習 の ア ド バ イ ス

・基礎基本の徹底を図るため、復習→小テストを定期的に行い、流れを定着させる。
・問題演習で終わらず、教科書音読や暗唱などの課題を出し、音読の習慣を身につけさせる。
・決まった課題だけでなく、主体的に学んでいくために、ノートをまとめたり調べ学習をさせたりする。

深い学びシリーズ（おすすめの本）

①他社が出版している検定教科書。
　東京都は6社を使っているので、他の教科書の内容に近いものが出ることもある。
②子供向けの英語の絵本。絵や写真が入っているので内容が頭にはいりやすい。
③自分が内容を知っている本の英語版。単語がわからなくても内容を推測して読みやすい。